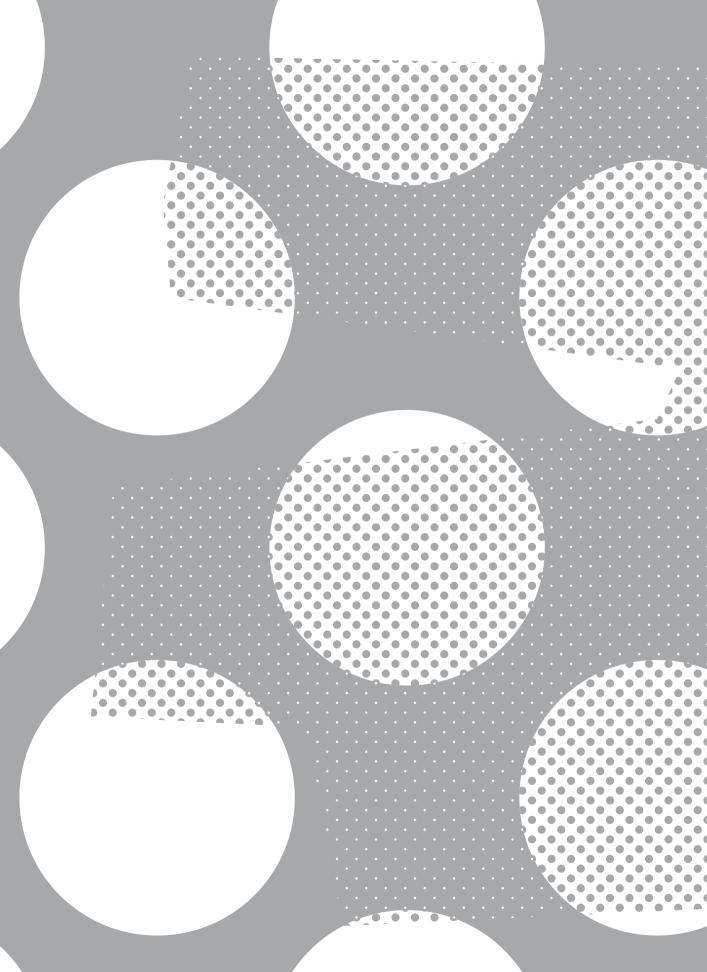
# nnua



公立大学である IAMAS (イアマス) にとって地域連携や貢献は重要な使命の一つです。本年 RCIC で実施した調査によると、全教員の 95% が地域連携や地域貢献に関わり、半数の教員は毎年複数の地域連携や貢献に携わっています。小規模の教育研究機関でありながら、多様な連携を通して、教育研究の成果を社会で実践しております。同時に、本学にとって連携は新たな挑戦の場でもあります。本報告書から本学の連携にご関心をもって頂ければ幸いです。

4 — IAMAS ARTIST FILE #06 クワクボリョウタ 会田大也

みるこころみるかえりみる

10 — Ogaki Mini Maker Faire 2018

2 ----イアマスこどもだいがく

14 ----- ビートたけ

16 **GIFU** クラフトフェア

18 ――――― 清流の国ぎふ芸術祭「アート体験プログラムーアートラボぎふー」

「つくる人、すむ人、みる人でつくるコミュニティ・アーカイブ」〈坂倉準三篇〉



## 感性の場と思われている美術館で 知性をベースにした ワークショップを持ち込む

「IAMAS ARTIST FILE」は、IAMASと岐阜県美術館の連携企画協力事業である。今回で第6回目となる「IAMAS ARTIST FILE #06」では、近年見る行為と内面の連関をテーマにインスタレーションを発表してきたアーティスト、クワクボリョウタと、ミュージアム・エデュケーターとして数々のワークショップを構築してきた会田大也による二人展を開催した。クワクボにより5つの作品が展示され、会田により4つのワークショップが会期中に開催された。また本学学生によるワークショップも3回行われた。展示作品とワークショップを同一空間で並行して行うことで、来館者が体験を自ら生み出す場としての美術館、感じるだけでなく考える場としての美術館のあり方を実践的に提案した。

連携のきっかけ -

過去 5 回の「IAMAS ARTIST FILE」の開催を 通じて、IAMAS が発信し続けてきた現代的で 多様な芸術表現を紹介する意義が岐阜県美術館 と IAMAS の双方において醸成され、相互協力 体制がより強化されたことによる。 IAMAS の関わり -

展示作品の制作補助にはあたらしい TOY プロジェクトのメンバーを中心に多数の学生が携わった。また、三組の学生が会期中にワークショップを行った。これは本学の授業の中で構想・設計したワークショップを一般参加者を対象に行ったものである。

連携の成果

IAMASと岐阜県美術館の今後の連携がより深 化する契機となった。ワークショップにはさま ざまな年齢層の来場者が参加し、また複数回来 場する人もみられた。本展のレビューは東海圏 の新聞コラムや批評誌等に掲載された。





主催 岐阜県美術館

共催 岐阜新聞社 岐阜放送

#### 連携場所

#### 岐阜県美術館

#### 担当教員

クワクボリョウタ准教授 会田大也非常勤講師

#### 協力者

作品制作 池田慧太 佐々木耀 佐藤栞

佐藤優太郎 柴田一秀 竹村望

棚原みずき 津曲洸太 中路景暁 野上萌 藤本遼太郎 森田理紗子

WS デザイン 五十川泰規 柴田一秀 柴田英徳

中田航平 野呂祐人 平瀬未来

企画 西山恒彦(岐阜県美術館) 齋藤智愛(岐阜県美術館)

制作進行
八嶋有司

展示設営責任 佐藤忠彦

(有限会社 トリガーデバイス)

WS什器デザイン One-size-fits-one / LAP

WS什器制作 富田太基 web 伊藤晶子

デザイン 中西要介 (株式会社 STUDIO PT.)

中澤耕平 (株式会社 STUDIO PT.)

根津小春 (株式会社 STUDIO PT.)

イラスト fancomi

#### 1 展示作品 奥から「みる一時刻」「みる一粒子」 photo: 今井 正由己

#### 連携期間

2017年12月-2019年3月

2017 12 美術館との打ち合わせ

2018 4 展示企画の素案作成

6 作品制作

9 展示設営、展示開始 会期終了まで毎週ワークショップ開催

10 トークイベント実施、展示撮影

11 展示撤収

12 冊子編集

2019 3 冊子完成

#### 補足情報

https://www.iamas.ac.jp/af/06/



#### 担当教員のコメントー

美術館の学芸員の協力のもと、作品展示とワークショップを対等に位置付け、同じ空間で行うという今までにない展覧会の展開方法を提示できた。公的な美術館での制作やワークショップ開催に関わることで県内外の来場者からのフィードバックを得ることできた。(クワクボリョウタ)

<sup>2</sup> 展示作品 「みる一幕」 photo: 今井正由己

<sup>3</sup> ワークショップエリア (会期とともに変化)

IAMAS ARTIST FILE #06 クワクボリョウタ 会田大也 みるこころみるかえりみる

### Side Talk

展覧会における作品とワークショップの関係について、学生と共に振り返ります。



クワクボリョウタ IAMAS准教授



**柴田一秀** 修士1年 「空間まちがいさがし」担当



野呂祐人 修士2年 「モノトーク」担当



平瀬未来 修士2年 「観察ねんど」担当

—— 展覧会『みるこころみるかえりみる』の趣 旨は?

クワクボ 今回公立美術館で展覧会をやるという ことで、そこが自分にとってどういう場所かと 考えました。僕自身、中学高校の頃、地元の公 立美術館に用もないのに行っていたという記憶 があって、たまたまやっていた企画展とか常設 展とかが、後になって自分の中で意外に思い出 深いものになってたという認識があるんです。 言ってみれば、公園みたいなものというか、そ ういう機能が実はあるんじゃないかと思ってい ます。そんな風に来られる展覧会を考えて、参 加型ということになりました。普通は美術館が 展覧会を開催する際に、展示が主だとしたらワー クショップなど教育普及活動は副みたいな位置 付けでやられていることが多いかと思うんです けど、副だと思われているところをもっとメイ ンにもってきてはどうかと。展示とワークショッ プが対等な位置付けになったらどんなことがで きるかというのが最初の発想でした。

―― 展示とワークショップの関連はどのようになっていたのですか?

クワクボまず作家がいて、見る人がその作品を通して作者の考えを読み解く、という構造にならないようにしました。来場者が半ば勝手にその作品を肴に色々なことを考えたり話したり、そういう意味での作品を今回作ったんです。それがワークショップで培われる「ある態度」というか、ものごとに対する接し方とか面白がり方というものを、その態度で作品を見てもらえれば、その作品を耕して色々な経験やアイデアをそこから生み出してもらえるのではないかと、そういう発想でやりました。なので、作品も――「作品のタネ」と会田さんは呼んでいるのですが、あまり強い主張が入れ込まれる前の、言ってみれば思いついたような習作に近いもの

で、にも関わらず規模だけは大きなものになっています。会場の中心にワークショップのエリアがあって、毎週末そこで行われるワークショップの結果やプロセスがどんどん集積していって、毎週行く度にそこの空間の中が変わっていくというような作りにしました。

—— 同じ空間に鑑賞者と体験者がいるという環 境はどうでしたか?

クワクボ 作品を見に来た人がワークショップを 眺めているというのはちょこちょこありました。 そういう展示会場がガヤガヤしているのってい いなって。

柴田 あのガヤガヤしている空間は、最初にクワ クボ先生が言われたように、確かにめちゃめちゃ 公園だった。

野呂 ワークショップの体験者だけを考えるとガヤガヤしているほうが緊張しなくて良かった。 クワクボ先生の、鑑賞者が触発されてアイデアが出てくるという「作品のタネ」というのがたくさんあったので、マインドがある程度出来上がっていて。普通教室でワークショップやると、まず緊張解してとか。抽象的なことをする場合はアート的な頭に切り替えるための段階踏まなければいけないんですけど、今回はやりやすい環境だったなと思う。

平瀬 確かに作品と同じ環境でワークショップやるって特別だなってすごく感じた。例えば、家とかで子どもが遊びとしてやる粘土遊びと、あそこの場だからできることの差があると感じた。 クオリティがみんな高くて。

クワクボ 美術館に何か有難い作品を授かりにい くという態度じゃなくて、そこで何か作るんだっ ていうことを空間の中で表わしたという意味で、 作品もあればワークショップもあるということ をやったわけですよね。

―― ワークショップによる展覧会の変化はどのように見せたのでしょうか?

クワクボ 当初の狙いではあったんですけど……ちょっと難しいなと思ったのは、ワークショップ見ているとめちゃめちゃ面白いんだけど、アーカイブ展示はその面白さを気づくには、映像を頑張って見ないといけないのでなかなかそこまで理解できない。結局物として展示されているのはワークショップのプロセスで生まれた残存物みたいなものなので。実際のワークショップの醍醐味はそのプロセスで何が起きたかということなんですよね。それをどうやって見せるかということに関してはまだ課題だなと思いました。文脈みたいなのをどうやって形に残していけるのかというのはなかなか難しいですね。

展示作品自体を変えることは考えていなくて、 ただワークショップを行う広場がどんどん変 わって行くことは考えていたんです。作品の見 方が変わるだけで、作品が物理的に変わる必要 は今回ないと思ったわけです。

やっぱりワークショップの醍醐味を伝える難しさはありました。実際、ワークショップの最中に画期的な出来事が起きているわけですよ。例えば会田さんの「マネーワークショップ」の中では「保険」みたいな概念が生まれた瞬間がありました。そうした面白さの伝達方法をうまく見つけられれば、ワークショップの評価に変化が生まれると思います。

柴田 僕たちの「空間まちがいさがし」では、見 つけやすいものと見つけにくいものの当たりは つけていたんですが、それと全く一致しない順

作品を耕して色々な経験やアイデアをそこから生み出してもらえるのではないかと、そういう発想でやりました (クワクボ)







- 2
- 3
- 4
- 1「パスタ建築ワークショップ」の様子
- 2 学生ワークショップ「モノトーク」の様子
- 3 学生ワークショップ「観察ねんど」の様子
- 4「マネーワークショップ」のアーカイブ展示

### 同じ展覧会でワークショップを何回も受けるという体験で、面白い ことがもっと濃密になっていくのではないかな(野呂)

番で見つかっていって。見つけやすいと思っていたものが全然見つからなかったり。知らない人同士で作戦会議を始めたり、初対面なのかなというくらい仲良くなってたり。そういうところが事件であり、またそのアーカイブで残せないところだと思いました。

野呂 僕の「モノトーク」では、2人でものを作る過程のときに喧嘩みたいにバチバチやっている人が多くて。女子高生2人が友達同士で参加していたんですが、1人が人工物でどんどん組み立てたいのに、もう1人が自然物をもってきて。1人は上にいきたがっているのに、もう1人が押さえつけるように上から置いていって。最後にそのまんま『気が合わない』というタイトルつけて、盛り上がっていたんです。そのプロセス見せようと今回タイトルを付け加えた。

平瀬 私の「観察ねんど」は一番事件が起こりに くいものだったのですけど、比較的みんな与え られたモチーフ(今回はピーマン)に、とにか く似せるというところにフォーカスしている。 ある意味で他の人よりどれだけ正解に近づける かなという要素があって、似せるという行為の 中で、そこの焦点のベクトルがみんな違った というところが結構顕著に見えたところが面白 かった。

— ワークショップのアーカイブはどのように されましたか?

クワクボ映像とスチルですね。

平瀬 私は全部静止画のスライドショーみたいなアーカイブで展示したんですけど、どこをピックアップして凝縮したら伝わるかというのは難しかった。

平瀬 実際映像を見て、面白さを後から見て感じたりするのは、ちょっと微妙だと思う。 やっぱり、あのライブ感で結構面白かったというのはすごくあると思って。

野呂あれを伝える手段って何だろう。

平瀬 私自身、ワークショップの名残を見るというのはあまり好きじゃない。参加してないワークショップの結果を見ても、それ以上にどうしても近づけない感じがあると思って。

—— ワークショップに連続して参加した人はいますか?

クワクボいますいます。ほとんど全部参加した 人もいます。元から熱心な人、家族連れ、あと 高校生も来ていました。最初2人で来てたのが 次の時は5人くらい来てくれました。リピート してくれたというのはすごく期待値が上がった 結果なのかなと思います。

野呂 今聞いてて、リピーターがいるのはすごくいいって思ったんですけど。僕の場合、ワークショップ1回1時間半でやって、それまでに面白いことがたくさん起こるんですけど、それを最終的にアーカイブに残せないというのがありますし、体験者自身も多分一過性のもので終わってしまう。同じ展覧会でワークショップを何回も受けるという体験で、面白いことがもっと濃密になっていくのではないかな。そういう意味でワークショップ会場と作品に囲まれていることは、リピーターが生まれることと関係あるんじゃないかな。

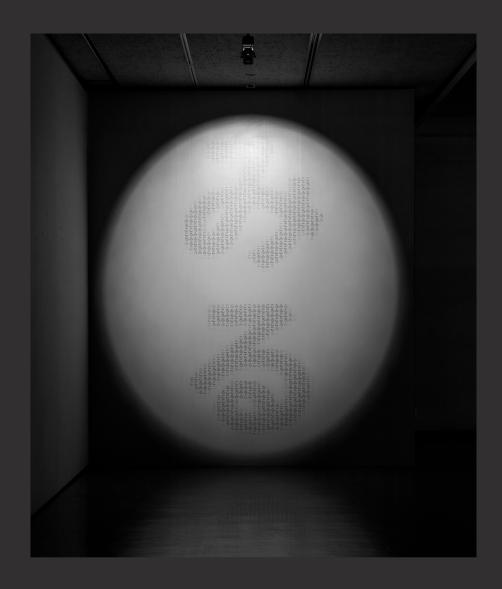
―― 意図した美術館の役割としての広場的機能 について、どう思いますか?

クワクボ 美術館の側からしたら面倒な提案をしてしまったのかもしれないけど、担当の学芸員さんは今回ずっと一緒にやってくださって、すごく知恵をいろいろ絞ってくれたり、展示の配置とか毎回手伝ってもらいました。その過程で、多分美術館だけだったらこういうやり方ではやることはなかったとは言ってくれました。そういう意味ではいい提案になったのかもしれないと思います。

--- 岐阜県美術館でやられているワークショップとの違いは?

クワクボ もう少し知性をベースにやっていくというワークショップを美術館の中で受けもってもいいんじゃないかなというのが、今回一つ裏のテーマなんです。感性の部分と知性の部分とあって、会田さんのワークショップは知性なんですよね。美術館って感性の場所だとみんな思っているけど、実は知性の場であるというのは結構重要だと。一番最初に会田さんに相談した時もその話がまずあって、ワークショップやるというのも実は一つのきっかけだったんですよね。柴田 実は話し合う中で、美術館でやるワークショップらしいのをやった方がいいのか、という不安があって。感性の場として合わせたほうがいいのかな、美術館でやる意味として。

平瀬 感性の育て方って一番曖昧なものですよ ね。何かに定期的に接していたら感性が育つか と言ったら、あるのかもしれないけど、明確に これがあるということは絶対ないと思っていて。



美術って予備校では技術的なところから入るんですけど、それはセンスがあるからできるのではなくて、何を見ようとするかを鍛えるためだから、そこの意識が向きさえすれば誰でもできると、本当は美術の技術ってそういうものですよね。美術は感性と技術でどうにかなる領域という意識がもう少し砕けたらいいなといつも思っていて。クワクボさんの今の話はすごく腑に落ちる。

野呂 会田さんのワークショップは感性的に訴えかけているようで、最後は「パスタ建築の創造性はどこにあるのでしょうか」みたいなガチガチなスライドがバンと出てきて。それは感性と知性が接続して、入り混じっていると。

クワクボ 日本はことさら美術館は感性の場所だ

と勝手に思っているんじゃないかなって気がします。やる側がそういう風に思っているところが大きい。イアマスをみてもわかるように、そんなに感性感性と言っていない。イアマスでやってることが全て美術館に入ってもいいんじゃないかって。

――「みる」というテーマについてはどのように 感じましたか?

クワクボ 美術館だから大変なとこもあったけ ど、一昨年に TOY プロジェクトが岐阜市科学 館でやった時に「ある発見」としてあったのは、科学館に来た人たちと美術館に来た人たちの態 度は、同じものを見せても違うということ。 そのときに来たのは科学館に来た人たちなんです

よね。科学館に来た人たちには作品に接するときに「なるほど」というマインドセットがあって、美術館に来た時とはどこか違うようなんです。だから、また場所の設定みたいなのをちょっと変えてもいい。ただ美術館じゃないとじっと「見る」という態度が後ろに退行しちゃうので、どうしたものかなと思いますけど。

柴田「見る」って態度で来てる印象はわかります よね。

クワクボ 作品に関しては手を触らない。美術館では、見て、触りたいけど触れないっていうところが面白いと思ったんですよね。そこのフラストレーションを今回はワークショップに振り分けたんです。

#### 聞き手:

金山智子 (IAMAS 教授/RCIC センター長)

美術館って感性の場所だとみんな思っているけど、実は知性の場であるというのは結構重要だと (クワクボ)



## Ogaki Mini Maker Faire 2018

2018.4 — 2018.12

## Ogaki Mini Maker Faire

Ogaki Mini Maker Faire 2018 は、岐阜県大垣市のソフトピアジャパン地区において 2018 年 12 月 1 日から 2 日間に渡って開催した DIY の祭典。全国から集まった様々な 分野のつくり手「Maker (メイカー)」たち 143 組(約 400 名)と約 7,000 名の来場者 が参加した。出展者の分野は、電子工作やロボット、クラフト、ベーバークラフト、電子楽器、サイエンス工作、リサイクル/アップサイクルなど多岐に渡った。個人や教育 機関、企業など多様な立場の Maker たちがつくったものを見せ、語り、その楽しさを 共有する機会をイベントとして提供することにより、長期的には文化を醸成すること目的に、2010 年から隔年で開催し、全国的にも知られた地域主催のイベントとしてすっかり定着した。

連携のきっかけ -

2010 年から隔年で開催してきた Mini Maker Faire の継続的な開催を検討し、IAMAS として 開催すべきであるという判断に至ったため、日 本国内での Maker Faire ライセンス元であるオ ライリー・ジャパンに開催の意志を伝えた。

IAMASの関わり

実行委員会の中心的な存在として、産業文化研究センターと事務局で企画から運営までを担当 した。

連携の成果・

140 組以上の出展者と約7,000人の来場者が参加し、多様な作品の展示やワークショップを通じて交流し、楽しさが次々と拡がる風景をつくり出し、地域が自発的に開催するコミュニティベースの Maker Faire として定着した姿を提示できた。













- 1 屋内展示の様子
- 2 屋外展示の様子
- 3 ライブパフォーマンス Nx.PC.Live の様子
- 4 関連イベント展示の様子: SEER: Simulative Emotional Expression Robot(藤堂高行)

Ogaki Mini Maker Faire 2018 実行委員会

#### 連携場所

ソフトピアジャパン センタービル

#### 担当教員

小林茂教授

#### 協力者

 ディレクター
 具志堅裕介

 会場構成
 八嶋有司

 web
 伊藤晶子

 デザイン
 大山千尋

(中村直永デザイン事務所)

#### 連携期間

2018年4月-2018年12月

2018 1 オライリー・ジャパンとミーティング

- 4 実行委員会発足に向けての準備
- 5 第1回実行委員会開催
- 8 出展者募集開始
- 12 Ogaki Mini Maker Faire 2018 開催

2019 3 第2回実行委員会開催(予定)

#### 補足情報

https://www.iamas.ac.jp/ommf2018/



担当教員のコメントー

イベント自体が地域に定着したのに加えて、「IAMAS 先端 IT・IoT 利活用啓発事業 2018」の成果展示を組み合わせたことにより、生活の中にテクノロジーが溶け込んだ風景と、IAMAS 卒業生の活躍を多くの来場者に見ていただけたのは良かった。(小林茂)



## イアマスこどもだいがく

2018.5 - 2018.12



## 考え、発見し、表現する

芸術や科学といった領域を超えることで新しいものやことを創造するという IAMAS の教育理念を小学生を対象とした教育において実践することを目的としたプロジェクト。既存の教育の枠組みを超え、自ら考え、柔軟で自由に発想し、表現することを体験してもらうことを目指している。2017 年より大垣市との連携で開始、2 年目となる今年度は、樽見鉄道やスイトピアこどもサイエンスプラザのプラネタリウム、墨俣一夜城の舞台など大垣市の多様な施設を活用しながら、音や映像表現、プログラミングやアルゴリズムなど5つのワークショップを実践した。



連携のきっかけ

大垣市情報企画課より 2017 年度の子ども向け 講座での連携を相談され、本学の特色を活かし 柔軟な発想や表現を体験するワークショップを 実施した。良い成果を得たことから、2018 年 度は大垣市政 100 年に合わせ、回数や時期など 拡大して実施した。 IAMAS の関わり

2017 年同様実施した5つのワークショップの 企画を本学が提案した。特に、今年度は大垣市 の多様な施設を活用することを意識した企画立 案を行ない、大垣市の協力のもと、実施した。 広報活動においてもチラシ制作を担当した。 連携の成果

子どもたちは、自由な発想や表現を楽しみながら、新たな発見をする様子が観察された。参加した父兄たちは柔軟な発想や創造力を養う機会を求めていることも理解できた。本取り組みが地域で少しずつ認知され、同様の教育連携の依頼につながり始めている。







大垣市情報企画課

#### 連携場所

#### 樽見鉄道

スイトピアこどもサイエンスプラザ 墨俣一夜城能舞台

#### 担当教員

金山智子教授 平林真実教授 三輪眞弘教授 前田真二郎教授 クワクボリョウタ准教授

#### 協力者

「プログラミングトレイン」

日本総合ビジネス専門学校 中田航平 柴田一秀 大野正俊 「天体顕微鏡」

野呂祐人 工藤絵美 平瀬未来 「ガムラン宇宙」

中川眞(大阪市立大学教授)

マルガサリ 林毅 伏田昌弘 津曲洸太 「あたらしい TOY コレクション」

栗田真悟 佐藤優太郎 長野櫻子 佐々木耀 サブ講師 中路景暁

#### 連携期間

2018年5月-2018年12月

2018 5 ワークショップ設計と決定

6 ワークショップ準備

7 「プログラミングトレイン」(7/14)

8 「天体顕微鏡」(8/18)

9 「ガムラン宇宙」(9/23)

11 ワークショップ準備

12 「あたらしい TOY コレクション」(12/15) 「天体顕微鏡 II」(12/23)



- 1 身近にあるものを顕微鏡で拡大し投影
- 2 鏡を見ながら両手で絵を描く
- 3 自分の身体に絵を描く
- 4 拡大して見たいものを選ぶ
- 5 能舞台でガムラン
- 6 鉄道の中でプログラミング

#### 担当教員のコメント ―

2017 年度よりも多様な施設を使い、多様なワークショップを提供することができた。一方で、 夏休みや冬休み以外での日程調整や参加者募集 の難しさを体験した。実施体制やスケジュール に関しては来年度の課題となった。(金山智子)

## ビートたけ

2018.1 - 2018.10



## 「表知なる昔に触れる体験」

「ビートたけ」は、「揖斐川ワンダーピクニック」に出展するために結成した楽器制作プロジェクトチームである。揖斐川ワンダーピクニックは「新旧混在」をテーマに掲げた複合型タウンフェスティバルである。日本三大美竹林と讃えられる揖斐川の竹林で行われるということもあり、「竹」をテーマとした取り組みを期待された。「新旧混在」「竹」といったキーワードから、古くから存在する竹の楽器をリサーチし、新たな竹の楽器を開発することによって「未知なる音に触れる体験」を作り出すことを目指した。

会場では来場者が楽器に触れる体験型の展示と自作楽器を使ったパフォーマンスを行なった。古来から暮らしのなかで利用されてきた身近な素材としての竹から鳴らされる新しい音・未知なる音は、竹が秘めた素材としての可能性を響かせた。

連携のきっかけ -

2014 年、揖斐川ワンダーピクニック実行委員会と RCIC の地域連携が始まった。

4年目となる2018年は揖斐川に日本三大美竹林 があることから、地域資源としての「竹」をテー マにしたアート体験の充実を図りたいと打診が あった。 IAMAS の関わり -

素材としての竹を資源と捉えて、その特性を活かした「新しい楽器」を開発した。実在する竹の楽器にアレンジを加える、あるいは発音の仕組みを利用したりすることによって、「楽器の素材としての竹」の可能性を押し広げることを試みた。

連携の成果 -

2018年10月に行われた揖斐川ワンダーピクニックにおいて、「ビートたけ」チームでプース出展した。開発した「エレキ・バリンビン」「ぐし笛」といったオリジナルの竹楽器を展示・デモンストレーションという形で発表することができた。









揖斐川ワンダーピクニック実行委員会

連携場所

揖斐郡揖斐川町

担当教員

具志堅裕介研究員 前林明次教授

協力者

楽器制作おおしまたくろう記録山田聡 小濱史雄運営スタッフ野呂祐人 兼城宇基

#### 連携期間

2018年1月-2018年10月

2018 1 新たな企画内容に関する打ち合わせ

5 現地視察

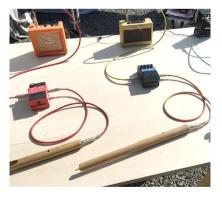
6 竹材の入手方法について検討、企画内 容の検討

7 竹楽器と制作方法を調査

8 企画内容決定、実験・制作開始

9 実験・制作

10 イベント準備、演奏の練習、イベント実施







2 6 7

1 ビートたけイメージ

2 エレキバリンビンでセッション

3 竹の特性を活かす楽器のあり方を模索して生まれた試作品

4 竹楽器 (バリンビン) を鳴らして遊ぶ様子

5 竹楽器 (巨大スリットドラム) を鳴らして遊ぶ様子

6 ライブセット

7 バリンビンの鳴らし方をレクチャー

#### 担当教員のコメント ―

実験や制作を通して竹材の取り扱いの難しさを 感じたが、同時に楽器の材料として大きな可能 性を感じた。リサーチとプロトタイピングによ り新たな楽器を作ることはできたが、イベント 内での体験としてはまだまだ発展する余地があ る。(具志堅裕介)

## GIFU クラフトフェア

2018.4 - 2018.12

# 「毛のをつくる 体験をする場」をつくる

毎秋開催される GIFU クラフトフェアは人気作家が集まる大イベントである。「つくる」をテーマにした今年のフェアでは、本学と卒業生の廣瀬周士さんが主宰する工房 sketch on、卒業生の篠田幸雄さんの教材自作部とコラボレーションし、ワークショップ「グロッケン伯爵とグロッケン Jr をつくろう」を実施した。カットした鉄を取り付けて作る全長 8m の鉄琴や叩くと光るバチ作りの二つのワークショップは、これまでのクラフトフェアにはない新しいものづくりの機会を提供し、また Fab Cafe Hida やツバキラボと連携することで、ものづくりの空間を拡張させた。伝統工芸やクラフトアーティストらによるトークセッションの企画運営、岐阜駅からの通路に IAMAS メディアサイト研究会の Relational Pods も設置した。

#### 連携のきっかけー

アクティブ G の運営会社である森ビル(株)より、GIFU クラフトフェアで「ものづくり」を 経験できるような企画として、本学との連携を 希望された。

#### IAMAS の関わり -

アクティブ G からの連携相談を受け、Fab Cafe Hida やツバキラボといった県内のファブ施設 や sketch on など工房との連携により、これまでにないワークショップやアーティストトークを企画実施した。

#### 連携の成果 -

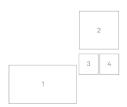
新しいものづくりワークショップは、子どもや 親子連れなど新たな参加者層の拡大に繋がり、 クラフトフェアにとっても新しい方向性を示す ことができた。Ogaki Mini Maker Faire 2018 の森ビルのブースで成果の一部は展示された。











- 1 鉄琴を取り付けるための穴あけ加工
- 2 全長 8m の鉄琴とそれを光るマレットで叩く子ども達
- 3 マレットをつくるワークショップ
- 4 叩くと光る《Relational Pods》

アクティブ G

sketch on

ツバキラボ

(株) 飛騨の森でクマは踊る

連携場所

アクティブG

#### 担当教員

金山智子教授 伊澤宥依技術支援専門職 山田聡研究員

#### 協力者

制作・WS 廣瀬周士 (sketch on) 制作・設営 篠田幸雄 (教材自作部)

市野昌宏(IAMAS メディアサイ

卜研究会)

レーザーカッ 高見千里(京都産業大学

ターオペレー RE:DIRECTION)

ション・WS 佐藤栞

#### 連携期間

2018年4月-2018年12月

2018 4 連携の関する打合せ

5 具体的な内容に関する打合わせ

6 「つくる」イベント案に関する打合せ

7 企画案の決定

8 ワークショップ用制作作業

9 ワークショップ準備/イベント実施

11 意見交換会

12 Ogaki Mini Maker Faire 2018 の森ビル

ブースにて一部展示



担当教員のコメントー

3日間で10万人以上の人たちが参加する大きなクラフトフェアで、クラフトとは違ったワークショップが多くの人たちにポジティブに受け入れられたことは本学にとっても学ぶことが多かった。他のものづくり関係者とコラボレーションできたことも良かった。(金山智子)



# 地域の建築を通して、コミュニティをアーカイブする

「つくる人、すむ人、みる人でつくるコミュニティ・アーカイブ」〈坂倉準三篇〉は、都市計画と建築を媒介にしたコミュニティのありようを探る試みである。設計者の思想、そこで日々を過ごす人、周辺に暮らす人々の視点を通じて、多角的に空間を記述し、その記憶を編集するプロジェクトである。具体的には、羽島市出身の建築家・坂倉準三による羽島市役所本庁舎(1959)、羽島市計画(1961)、羽島市勤労青少年ホーム(1963)、羽島市民会館(1968)を対象とし、参加者は岐阜県内に居住または勤務されている方とした。松隈洋によるレクチャー、各建築の見学および写真、図面、文献等の資料を手がかりにディスカッションを重ねながら、公共空間に込められた機能や思想を現在の視点から考え、発信することに重点を置いている。











連携のきっかけ -

アート体験プログラムの企画案として、建築を 最も身近なアートととらえ、公共空間の設計を 表現として考えることを提案した。「鑑賞」に 留まらない発見的な体験を提供する機会とし た。 IAMAS の関わり -

メディア表現学の分析手法を実践的に研究し、 研究情報の文化資源化を実験的に実施するプロ ジェクトとして、コミュニティ・アーカイブを 中心に据えたプログラムを計画、実施した。 連携の成果 -

市民や学生、建築関係者らの参加により、学内外の人的ネットワークを形成し、一過性のイベントに留まらない研究活動を継続している。本プログラムに関して11月9日のイベント終了後、2018年11月15日付の岐阜新聞で取り上げられるなどの評価を得た。









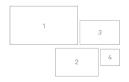












- 1 議場での見学の様子
- 2 関連資料
- 3 羽島市出身の参加者から当時の様子を聴く
- 4 坂倉準三が設計した家具を観察する

岐阜県

羽島市

文化庁国立近現代建築資料館

#### 連携場所

羽島市役所

羽島市勤労青少年ホーム

羽島市民会館

#### 担当教員

松井茂准教授 伊村靖子講師

#### 協力者

松隈洋 (建築史家、京都工芸繊 講師

維大学教授)

編集協力 桂川大 西村瑠海 水野茂朋

> 山田将生 深尾望

#### 参加学生

五十川泰規 野上萌 深尾望 長野櫻子

#### 連携期間

2018年5月-2019年2月

2018 5 羽島市役所訪問

プロジェクト実施に向けての調査、準備

- 6 松隈氏との企画内容に関する打ち合せ
- 8 イベント当日に関する調整、打ち合せ
- 11 イベントの実施 以後、冊子編集、展示 に関する毎週のディスカッション

2019 1 冊子制作

2 IAMAS2019 にて資料展示

#### 補足情報

https://www.iamas.ac.jp/hashima/



#### 担当教員のコメントー

岐阜おおがきビエンナーレ2017に引き続き、 都市計画・建築を主題とし、価値の発見・発信・ 共有に重点を置いた循環型のアーカイブの可能 性を模索してきた。毎週のディスカッションを 通じて、オープンな対話環境を設けられたこと が鍵になった。(伊村靖子)

#### 2018 年度 連携事例

No.	区分	名称	企業名 / 組織名	場所	担当教員等
1	共同研究	ものづくり	大広	IAMAS	金山智子 鈴木宣也
2	共同研究	商品販売に関する情報デザイン	(有) 稲葉商店	ナッツ&ビーンズ (大垣市藤江町)	金山智子 瀬川晃 山田聡 (RCIC)
3	共同研究	チャギントン列車 和紙電極インタラクティブデザイン	長良川鉄道(株)	長良川鉄道	金山智子 小林孝浩 吉田茂樹
4	共同研究	チャギントンからくり人形列車	長良川鉄道(株)	長良川鉄道	金山智子 平林真実
5	イベント	イアマスこどもだいがく	大垣市情報企画課	樽見鉄道 スイトピアセンターコスモドーム 墨俣一夜城能舞台 IAMAS	金山智子 平林真実 三輪眞弘 前田真二郎 クワクボリョウタ 赤松正行
6	イベント	GIFU クラフトフェア	アクティブ G (森ビル)	アクティブ G(岐阜駅)	金山智子 伊澤宥依 (RCIC) 山田聡 (RCIC)
7	イベント	揖斐川ワンダービクニック 2018	揖斐川ワンダーピクニック実行委員会	岐阜県揖斐郡揖斐川町	具志堅裕介 (RCIC 前林明次
8	イベント	Ogaki Mini Maker Faire 2018	Ogaki Mini Maker Faire 2018 実行委員会	ソフトビアジャパン・センタービル	小林茂 具志堅裕介 (RCIC) 伊藤晶子 (RCIC)
9	イベント	養老アート・ビクニック	岐阜県	養老公園	赤松正行 伊村 靖子 鈴木 宣也 瀬川晃 松井茂
10	イベント	連結自転車	(株) 箕浦	IAMAS	赤松正行
1	イベント	大垣えきまえスクエアパーティー	大垣駅前商店街振興組合	大垣駅前南の噴水広場	金山智子
12	依頼	シンポジウム	総務省東海総合通信局/東海情報通信懇談会	名古屋ガーデンパレス	金山智子
13	依頼	ワークショップの依頼	社会福祉法人いぶき福祉会	IAMAS	小林茂
14	依頼	ワークショップの依頼	(福) わたほうしの会/(一社) たんぽぽの家	IAMAS	小林茂
15	依頼	ワークショップの依頼	(医) かがやき 総合在宅医療クリニック	IAMAS	小林茂
16	委託	情報工房活用	大垣市情報企画課	情報工房	金山智子
17	委託	アート体験プログラム事業	岐阜県文化局	羽島市役所 羽島市勤労青少年ホーム 羽島市民会館	松井茂 伊村靖子
18	委託	行政アイデアスケッチ	岐阜県職員研修所	IAMAS	金山智子 鈴木宣也 小林茂
19	相談	イベントへの参加	株式会社カノン	豊洲ピット	平林真実 山田晃嗣
20	相談	県美術館ウェブ・リニューアル	岐阜県美術館	岐阜県美術館	瀬川晃
.1	相談	講座開発	デジタルハリウッド	デジタルハリウッド	金山智子
.2	相談	ICT を利用した障害児教育	和光グループ(山田病院)	山田病院	山田晃嗣
23	相談	協働	岐阜新聞社	IAMAS	金山智子
24	相談	コンサルテーション	岐阜県森林公社/岐阜県林政部 中日アド企画	IAMAS	金山智子 瀬川晃
2.5	相談	ブロックチェーンの可能性	みの市民エネルギー(株)	みの市民エネルギー	金山智子
26	相談	IAMAS の活動紹介	大垣青年重役会	IAMAS	瀬川晃 小林茂
27	相談	商品開発・連携など	(株) 太洋社	IAMAS	瀬川晃 伊藤晶子 (RCIC) 山田聡 (RCIC)
28	相談	車についての教育普及ワークショップ	トヨタ部品岐阜共販	カラフルタウン岐阜	金山智子
29	相談	蔵を活用したアート事業	(株) 林本店	林本店	三輪真弘 金山智子
30	相談	イアマス波 (ウェイブ)	(株) 岐阜放送	岐阜放送	金山智子
31	相談	STEAM 教育	関市	関市市長公室 企画広報課	金山智子 鈴木宣也

#### 2018 年度 IAMAS 関連イベント

No.	区分	名称	イベント実施日	場所	担当教員等
1	イベント	Campfire Talk #03 + Tent Sauna Party  – "Design your Creative Workstyle"	2018年5月19日—20日	岐阜県揖斐郡 One Tree Academy	James Gibson
2	イベント	Philharmonic liminales -Visual, AI, Composition-	2018年6月17日	東京都渋谷区 Circus Tokyo	平林真実
3	イベント	EXTEND:Live Painting - Vision track PRIVATE EXPO 2018	2018年7月13日	東京都渋谷区 vision track UltraSuperNew Gallery	平林真実
4	イベント	養老サイクル・ステーション オープニング・イベント	2018年9月1日	岐阜県養老郡 養老公園	赤松正行 鈴木宣也 瀬川晃 松井茂 伊村靖子
5	イベント	Interim Report edition3	2018年9月2日	東京都渋谷区 Circus Tokyo	平林真実
6	イベント	Algorave x NxPC.Lab at Tokyo	2018年11月18日	東京都渋谷区 algorave circus tokyo	平林真実
7	展示	デザインあ展 in TOYAMA	2018年3月21日——5日20日	富山県富山市 富山県美術館	クワクボリョウタ
8	展示	マジカリアル〜 VR・AR が作り出す不思議体験〜	2018年7月14日—9月2日	長野県佐久市 サクモ佐久市子ども未来館	赤松正行
9	展示	再生される肌理 Ⅳ	2018年7月30日—10月19日	岐阜県大垣市 IAMAS Library Art Space	前田真二郎
.0	展示	「スマイル・ワールド/未確認浮遊物体」展	2018年8月18日—8月26日	愛知県知多郡 ゆめたろうプラザ	赤松正行
1	展示	KOSUGI+ANDO I WANT YOU – あなたが、欲しい	2018年10月5日—10月20日	京都府京都市 galerie 16	安藤泰彦
2	展示	E-FRAMES   電子ペーパーグラフィック展	2018年11月20日—11月22日	東京都品川区 FIG LAB	赤羽亨
3	展示	クワクボリョウタ展 みえるものすべて -all that you see-	2018年12月15日 2019年1月20日	岐阜県大垣市 スイトピアセンター	クワクボリョウ
.4	展示	「あしたをプロトタイピングする」展	2019年1月8日—1月16日	愛知県名古屋市 名古屋大学教養教育院 プロジェクトギャラリー「clas」	鈴木宣也 赤羽亨
15	上演	「愛の讃歌」Masahiro Miwa A Song in Praise of Love or FourBits-Gamelan	2018年7月14日	香川県高松市 高松市美術館	三輪真弘
6	上演	ドキュメンタリー・ドリーム・ショー —山形 in 東京 2018—	2018年10月26日	東京都新宿区 K's cinema	前田真二郎
.7	上演	記憶の劇場Ⅲ 三輪眞弘+前田真二郎 モノローグ・オベラ映像上映『新しい時代』	2018年11月15日 11月24日 12月22日	大阪豊中市 豊中市立文化芸術センター 京都府京都市 ゲーティスティテュートヴィラ鴨川 兵庫県神戸市 神戸アートビレッジセンター	三輪真弘 前田真二郎
.8	上演	TOYONAKA ARTS TRIBE 民族音楽の TRANCE ガムラン宇宙ミーティング	2019年3月1日—2日	大阪府豊中市 豊中市立文化芸術センター	三輪眞弘
9	出演	「フォルマント兄弟の長くまっすぐな道」 レクチャー&ライブ!	2018年5月5日	京都府京都市 外 soto	三輪眞弘
.0	出演	NHK-FM「坂本龍一ニューイヤー・スペシャル」	2019年1月1日	NHK-FM	松井茂
1	ワークショップ	MAX サマースクール・イン・藝大 2018	2018年8月6日-9日	東京都足立区 東京藝術大学	三輪眞弘
2	ワークショップ	Idea Sketching in Tokyo IAMAS の著者 4 名 × 清水淳子氏によるワークショップ	2018年6月16日	東京都渋谷区 amu	James Gibson 小林茂 鈴木宣也 赤羽亨
1.3	講演	「いま」を考えるトークシリーズ [vol.4] AI(人工知能)と音楽の未来	2018年3月24日	京都府京都市 ロームシアター京都	三輪眞弘
.4	講演	鈴木治行/音楽・映像・言葉 ~京フィル新作初演プレ・イヴェント	2018年4月7日	京都府京都市 外 soto	松井茂
.5	講演	さよなら未来ジャパンツアー 「新しい世界を予感せよ」	2018年6月10日	愛知県名古屋市 喫茶モノコト	小林茂
.6	講演	教文伝統芸能シリーズ「能楽なう」	2018年6月12日	北海道札幌市 札幌市教育文化会館	小林昌廣
7	講演	Maker Faire Tokyo 2018 テクノロジーの"辺境" 「枯れた技術の水平思考」をレンズとして	2018年8月4日	東京都江東区 東京ビッグサイト	小林茂

No.	区分	名称	イベント実施日	場所 / 出版社	担当教員等
28	講演	フィールドの音をきく vol.3	2018年8月5日	岐阜県岐阜市	前林明次
29	講演	川崎弘二『武満徹の電子音楽』刊行記念	2018年8月18日	ビッカフェ 大阪府大坂市	伊村靖子
30	講演	メディア・パフォーマンスとしての『武満徹の電子音楽』 放送セミナーシリーズ「ラジオを考える第3回」	2018年8月24日	スタンダードブックストア心斎橋 愛知県名古屋市	金山智子
30		~ネット世代から見えるラジオの魅力~	2016年6月24日	名古屋ガーデンパレス	亚川月1
31	講演	印象派絵画人気の秘密 ~至上の印象派展ビュールレ・コレクションから~	2018年8月24日	岐阜県岐阜市 アクティブ G (岐阜駅)	伊村靖子
32	講演	川崎弘二『武満徹の電子音楽』刊行記念トーク 「マス・メディアの中の芸術家」	2018年9月8日	東京都渋谷区 NADiff a/p/a/r/t	松井茂
33	講演	ぎふ未来音楽展 2018 ガラ・コンサート&シンポジウム	2018年9月9日	岐阜県岐阜市 サラマンカホール	三輪眞弘
34	講演	大谷能生 × 伊村靖子 × UCNV 「二個の者が same space ヲ occupy スル」	2018年9月14日	東京都北区 コ本や honkbooks	伊村靖子
35	講演	京都スマートシティエキスポ 2018 メイカーが地域と企業にもたらす未来 (Maker Faire Kyoto 2019 に向けて)	2018年10月5日	京都府相楽郡 けいはんなオープン イノベーションセンター	小林茂
36	講演	ローカル × メディア・テクノロジーの可能性を考える	2018年10月11日	北海道札幌市 和食バル「和およばれ」	金山智子
37	講演	AND softdevice #001:プロトタイピングのすがた @ 京都	2018年10月11日	京都府京都市 softdevice LAB	小林茂
38	講演	IAMAS、シンギュラリティ、デザインについて	2018年10月23日	岐阜県大垣市 IAMAS	鈴木宣也
39	講演	これからの創造のためのプラットフォーム 「狩猟採集民と動物とアート」	2018年10月27日	岐阜県岐阜市 nakaniwa	前林明次
40	講演	4thAMARC Asia-Pacific Regional Conference of Community Radios	2018年11月16日—19日	インドネシア Universitas Atmajaya Yojyakarta	金山智子
41	講演	池田町立八幡小学校スクールフォーラム「ようこそ先輩」	2018年11月17日	揖斐郡池田町	瀬川晃
42	講演	京都芸術センター叢書二 出版記念 「伝統芸能ことはじめ」番外編	2018年12月22日	京都府京都市 京都芸術センター	小林昌廣
43	講演	これからの創造のためのプラットフォーム 「からだの錯覚、日常にひそむ異界の風景」	2019年1月12日	岐阜県岐阜市 ビッカフェ	前林明次
44	講演	平成 30 年度公開講座「岐阜を知ろうさらに識ろう」 地方の一兼業農家ができること – その実践を通じて	2019年1月17日	岐阜県岐阜市 ネットワーク大学 コンソーシアム岐阜	小林孝浩
45	講演	連続講演会「明治 150 年を超えて」 第 5 回「芸術・音楽の終焉」	2019年1月26日	神奈川県 神奈川県近代美術館	三輪眞弘
46	講演	音が都市を創る~サウンドデザインが未来を拓く~	2019年1月31日	静岡県浜松市 アクトシティ浜松コングレスセンター	三輪眞弘
47	講演	第 11 回 恵比寿映像祭 I YEBISU 大学 市民課~映像のシティズンシップカフェ	2019年2月14日	東京都写真美術館 YEBISU GARDEN CAFE	前田真二郎
48	学会	第 44 回 日本映像学会大会	2018年5月27日	東京都中野区 東京工芸大学	前田真二郎
49	学会	日本 NPO 学会	2018年6月6日—9日	東京都豊島区 立教大学	金山智子
50	学会	アート・ドキュメンテーション学会 2018 年度年次大会	2018年6月16日—17日	千葉県佐倉市 国立歴史民俗博物館	赤羽亨 池田泰教(研究補助員)
51	学会	The International Association for Media and Communication Research 2018	2018年6月20日—24日	アメリカ合衆国オレゴン州 University of Oregon	金山智子
52	学会	デザイン学会 第 65 回春季研究発表大会	2018年6月22日—24日	大阪府大阪市 大阪工業大学	池田泰教(研究補助員) 赤羽亨
53	学会	Entertainment Computing 2018	2018年9月15日	東京都調布市電気通信大学	中田航平(学生) 平林真実 小林孝浩
54	学会	地域活性学会	2018年9月15日—16日	東京都文京区 拓殖大学	金山智子 工藤恵美(学生) 野呂祐人(学生) 小林孝浩 吉田茂樹
55	学会	ヴィジュアルリテラシー国際シンボジウム 2018	2018年10月7日	愛知県名古屋市 名古屋芸術大学	鈴木宣也 井上奈那美(学生)
56	学会	ATAC カンファレンス 2018 京都	2018年12月15日	京都府京都市 国立京都国際会館	湯澤大樹(学生) 山田晃嗣 小林孝浩 前林明次
53	学会	情報処理学会/ IPSJ Symposium Series, INTERACTION2019	2019年3月6日—8日	東京都千代田 一橋大学	伏田昌弘(学生) 平林真実 小林孝浩

### IAMAS Annual Report 2018 - 産業・地域連携報告 -

2019年2月発行

監修

金山智子 瀬川晃

編集

山田聡

デザイン

近藤崇司(GOCCO.)

発行

IAMAS産業文化研究センター (RCIC)

印刷

有限会社 大六印刷

IAMAS 産業文化研究センター (RCIC) 〒 503-0807 岐阜県大垣市今宿 6 丁目 52-18 ワークショップ 24 https://www.iamas.ac.jp/rcic/ 0584-75-6606

